

早良逍遥マップ記拾遺

—中世および近世の灌漑用水とその関連遺構—

内山 敏典

はじめに

筆者はこれまで『早良逍遥マップ記—歩いて歴史を訪ね、未来に繋ぐ—』(2003年)、『続早良逍遥マップ記—鉄道跡を歩いて、未来に繋ぐ—』(2005年)、『福岡都市圏歴史散策マップ記』(2009年)、『福岡(筑前)およびその関連地域の歴史散策マップ記—とくに高取焼および元寇を例とした「まちおこし」のための文化・歴史について—』(2011年)、『旧三瀬街道とその周辺逍遥マップ記—伊能忠敬一行の測量から200年を経過して—』(2015年)、『唐津・多久・大町地域周辺散策記—歴史的遺産を通じて、現在・過去・未来を考える—』(2017年)、『路地から見る歴史と文化—「まち」おこしでの財産を活かすため—』(2018年)および『筑紫国(福岡県)周辺の古代城跡からみる歴史—「まち」おこしとしての財産を活かすため—』(2020年)および『西油山および荒平山周辺の歴史散策マップ記』(2020年)を上梓してきた。『早良逍遥マップ記』、『続早良逍遥マップ記』、『旧三瀬街道とその周辺逍遥マップ記』および『西油山および荒平山周辺の歴史散策マップ記』は旧早良郡(現在の福岡市早良区・城南区・西区)の史跡名勝を逍遥しながら歩数とマップを作成し、それらの史跡名勝の謂れ等を記述したものである。残りの5冊は「まち」おこしを中心に旧早良郡以外の地域がウェイトを占める内容である。

今回の本冊子は福岡市早良区の灌漑用水路についてのものである。現在の福岡県には多くの灌漑用水路があるが、明治時代以前に存在し、多くの人々にも知られているなかで筆者が訪れた水路は三か所である。

まず、筑後川の山田堰から分流した堀川である。江戸時代における福岡藩の新田開発の一環として筑後川の山田堰から分流し、取水のために切抜水門を造り堀川の朝倉揚水車(菱野水車:三連水車、三島水車と久重水車:二連水車)で朝倉地域の農地を潤してきた。

つぎに、北九州市の堀川運河である。江戸時代において、遠賀川近くの唐戸水門から洞海湾まで舟を通すことや、洪水などの水害防止のために福岡藩の家臣(栗山利章、通称栗山大膳)によって開削された運河であり、明治時代より炭鉱閉山まで石炭輸送にも利用されていた。

さらに、「裂田の溝(さくたのうなで)」である。那珂川市山田(那珂川一の井手)からの同市今光から那珂川に戻る5.6km水路であり、『日本書紀』にその開削についての記述がある。「裂田の溝」は溝を掘って工事をしているとき大岩で水が通らなかったため、神功皇后が大臣の武内宿禰に命じて祈祷したところ雷が落ちて大磐が裂け水を通すことができたことからこの名がついている。溝の途中には、中世の城址で少弐景資などが城主であった岩戸城跡、裂田神社裏に裂けた大磐が残っているし、安徳天皇の祠がある安徳台などもあり、現在も農業用水路として利用されている。

これらの地域の灌漑用水路と同様、本冊子は、旧早良区における中世の灌漑用水路である「吊溝(釣溝)」および近世の灌漑用水路である「椿水路」を取り上げ、それらと関連遺構との関係についての内容となっている。これらの灌漑用水路を取り上げたのは、当時水不足に悩む農民のために造られ、それぞれ地域の水路が食料生産のために必要であっ

たためである。とくに、「吊溝（釣溝）」は旧早良区のうち現在の脇山地区および西地区にあり、椎原川からの取水となっている。「椿水路」は旧早良区のうち、現在の東入部8丁目から東入部地区、重留地区、野芥地区、田隈地区、干隈地区の一部および賀茂地区の賀茂神社までであったが、その後飯倉地区および原地区方面への田畑を潤し、室見小学校付近で金屑川に合流し、愛宕大橋付近で室見川と合流している。旧早良区の灌漑用水路とその関連遺構は、当時の土木技術および歴史的背景など地域のみならず、わが国の歴史と相まって観光資源や学校教育等に寄与するものと期待したい。

以下の写真は、筑後川の山田堰と堀川用水、遠賀川の唐戸水門・明治日本の産業革命遺産遠賀川水源地ポンプ室、那珂川市の裂田の溝とその付近の遺構である。



山田堰と切貫水門入口（朝倉）



堀川用水の説明板（朝倉）



堀川用水の三連水車（朝倉）



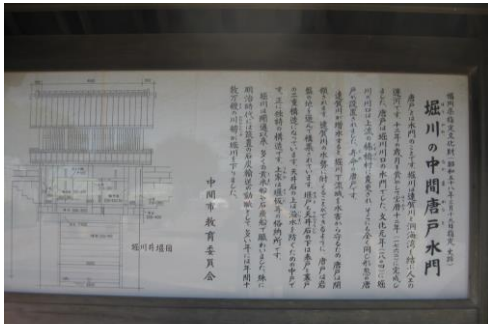
遠賀川近くの唐戸水門



唐戸水門



明治日本の産業革命遺産 遠賀川水源地ポンプ室



堀川の間唐戸水門の説明板



武内宿禰の祀り祈りの落雷で割れた大磐



裂田神社裏にある裂田の溝



少弐景資の墓（五輪の塔）



岩戸城跡本丸



岩戸城跡堀切



岩門城跡（城山）遠望



安徳台の登り坂



安徳台にある安徳宮



安徳館（旧公民館）から安徳台を遠望

本冊子の構成は、つぎの二部構成とそれぞれの区分となっている。

第Ⅰ部は比丘尼と吊溝およびその関連遺構で3区分ある。1.は比丘尼之碑と墓、吊溝、十二社宮および三社宮と円珠院など比丘尼関連遺構であり、2.は横山神社、主基斉田勅使碑、笠掛天神森、池田大日堂および野中公園と納骨堂裏などの比丘尼関連遺構とその付近の遺構であり、3.は小戸大神宮、小戸妙見神社、相ヶ浜、御膳立および熊野神社など比丘尼関連遺構とその付近の遺構である。

第Ⅱ部は椿水路およびその関連遺構で5区分ある。1.は椿水路（金屑川、稲塚川、油山川、室見川および小笠木川との関係）、2.は椿水路1（福岡市早良区東入部8-26付近から早良区賀茂1-29-14付近まで）、3. 椿水路2（西友サニー重留店裏から賀茂神社まで）、4. 油山川（旧稲塚川）について[幸田橋（干隈三差路信号付近）から深町橋（ふかまちばし）]、5. 油山川（旧稲塚川）から星の原団地内經由賀茂神社前の水路についてである。

なお、マップに記載している歩数は OMRON HJ-005（感度調整：中）で、標高はマピオン地図からのものである。歩数は人によって異なり、また標高はアプリを利用したものではないので参考としていただきたい。

目次	
はじめに-----	i
第Ⅰ部 比丘尼と吊溝およびその関連遺構	
1. 比丘尼之碑と墓、吊溝、十二社宮および三社宮と円珠院など 比丘尼関連遺構について-----	4
2. 横山神社、主基斉田勅使碑、笠掛天神森、池田大日堂および野中公園 と納骨堂裏などの比丘尼関連遺構とその付近の遺構について-----	17
3. 小戸大神宮、小戸妙見神社、相ヶ浜、御膳立および熊野神社など 比丘尼関連遺構とその付近の遺構について-----	29
第Ⅱ部 椿水路およびその関連遺構	
1. 椿水路（金屑川、稲塚川、油山川、室見川および小笠木川との関係）---	51
2. 椿水路1（福岡市早良区東入部8-26付近から早良区賀茂1-29 -14付近まで）-----	58
3. 椿水路2（西友サニー重留店裏から賀茂神社まで）-----	63
4. 油山川（旧稲塚川）について[幸田橋（干隈三差路信号付近）から深町 橋（ふかまちばし）]-----	66
5. 油山川（旧稲塚川）から星の原団地内經由賀茂神社前の水路 について-----	70
おわりに-----	75
[著者紹介]-----	76

第 I 部 比丘尼と吊溝およびその関連遺構

第Ⅰ部の比丘尼と吊溝およびその関連遺構では、1.は比丘尼之碑と墓、吊溝、十二社宮および三社宮と円珠院など比丘尼関連遺構であり、2.は横山神社、主基斉田勅使碑、笠掛天神森、池田大日堂および野中公園と納骨堂裏などの比丘尼関連遺構とその付近の遺構であり、3.は小戸大神宮、小戸妙見神社、相ヶ浜、御膳立および熊野神社など比丘尼関連遺構とその付近の遺構である。

第Ⅰ部のマップと歩数は以下に示しているが、1.および2.の実測の距離は次表である。

脇山・西・重留についての乗用車による走行距離 (km)

経路	場 所	走行距離	累積走行距離
1	重留新町信号	0.0	0.0
2	ドラッグコスモス東入部店	0.9	0.9
3	三郎丸の旧早良街道入口	0.3	1.2
4	早良平尾信号	1.4	2.6
5	一ツ家バス停	1.0	3.6
6	大門	1.6	5.2
7	脇山小バス停	0.8	6.0
8	野中公園前	0.6	6.6
9	谷口バス停	0.2	6.8
10	谷口橋	0.3	7.1
11	西中山公園前	1.6	8.7
12	広瀬消防内野分団前	0.4	9.1
13	広瀬出口(263号線)	0.3	9.4
14	陽光台バス停	0.3	9.7
15	内野大橋	0.5	10.2
16	早良平尾信号	1.2	11.4
17	早良営業所	1.6	13.0
18	重留信号	0.4	13.4
19	重留新町信号	0.6	14.0

この第Ⅰ部では、比丘尼（熊野尼僧）が地域住民のために吊溝という農業用水路をつくっているが、まず生の松原に着き、その後脇山・西地区に来るまでの足跡について私見を交えて取り上げている。なぜ比丘尼が生の松原に来たのかは、神功皇后の三韓遠征の地である相ヶ浜と近接しており、また元寇の地でもあったことも関連しているからであろうと考える。生の松原の壱岐神社には熊野神が相殿され、十六町には熊野神社、西の広瀬には熊野信仰の熊野神社（和歌山）を御本山としている三社宮、脇山の横山神社および十二社宮も熊野信仰と関連している。とくに、十二社宮は比丘尼の住居があったとされている。また、十二社宮は主基斉田の碑もある。このようなことから、このⅠ部では比丘尼と吊溝およびその関連遺構を取り上げる。

1. 比丘尼之碑と墓、吊溝、十二社宮および三社宮と円珠院など比丘尼関連遺構について

ここでは、以下の比丘尼之碑と墓、吊溝、十二社宮および三社宮と円珠院など比丘尼関連遺構について記述する。

比丘尼之碑と墓（福岡市早良区大字脇山：136号線沿いの標高150～160mの山）

比丘尼とは、一般に中世から近世にかけて熊野権現の信仰を広めるため、諸国を歩いた尼僧である。比丘尼のうち歌念仏や俚謡（りよう：民謡）をうたう歌比丘尼、地獄極楽の絵解きをする絵解き比丘尼、寺堂の創・再建のみならず唱導文学や芸能の発展にも寄与した勸進比丘尼といわれる比丘尼が諸国を巡っている^{注1)}。熊野比丘尼が諸国を巡って信仰活動する大きな要因としては、中世における熊野三山〔熊野本宮大社は家都美御子大神（けつみみこのおおかみ）を主祭神、熊野速玉大社は熊野速玉大神（くまのはやたまのおおかみ）と熊野夫須美大神（くまのふすみのおおかみ）を主祭神とし、家都美御子大神、熊野速玉大神、熊野夫須美大神の三神は熊野三所権現と呼ばれ、熊野三山はそれぞれの主祭神を相互に祀ることで連帯関係を結んでいることからである^{注2)}〕においては、荘園制の廃止により財政的に苦しくなり、そのために比丘尼により布教活動が始まったとされる。

旧早良区における比丘尼（熊野尼僧）は、今を去ること1100年以上も前（西暦900年前後）に、紀州熊野から生の松原を経由して脇山の地へ来たとのことである^{注3)}。脇山の地に移住してからは、田土を開墾し穀物の植えつけと、取り入れに勤しむと同時に、西村（現在の早良区西）に吊溝をつくり田畑に水を引いている。この比丘尼に関連する遺構は、上記の生の松原、熊野十二社（谷口）、吊溝（釣溝、鉤溝）、広瀬と中山の三所権現社（ともに熊野三神を祭られている）および横山神社などがある^{注4)}。比丘尼の碑と墓は、吊溝と田が見下ろせる136号線沿いの標高150～160mの山（この山の麓との標高比は28m）に建てられ、墓の傍らに恩人比丘尼之碑がある。その入口は、写真に見るように、入部・中原（停）線（県道136号線）沿いにある。入口は2ヵ所確認しているが、椎原方面に向かう小高い山の県道沿いよりも、県道沿いから左に少し入った北側斜面から登る道の方がわかりやすい。そのルートは写1～写16の昇順である。もう1ヵ所の入口は写17および写18である。

注

注1) [https://weblio 辞書の熊野比丘尼より引用](https://weblio辞書の熊野比丘尼より引用)。参考文献〔4〕の2232頁より引用。

注2) 新宮市観光協会 <https://www.shinguu.jp/kumanokodo1> より引用。

注3) 参考文献〔1〕の236頁および参考文献〔2〕の426頁を参照。

注4) 参考文献〔1〕の225頁および239頁を参照。

吊溝（福岡市早良区大字西：西の住所 500 番台の集落から椎原川沿いの上流へ向かう）

早良区の比丘尼の吊溝は現在の西地区にあり、椎原と西の境で標高 139m の椎原川から取水し下方の田畑へ流している。この用水路は岩石を削ったり、土を盛ったりし、川の上の断崖絶壁の斜面に沿って作られており、西の集落から取水口まで約 1km にわたって見ることができる。断崖絶壁の斜面に沿って作られているということから吊られた溝すなわち吊溝と称されている。この吊溝は水不足に苦しんでいる農民たちを比丘尼が見て、当初自力で作っていたが、その姿をみた農民が協力して完成したものである^{注5)}。そのルートは写 19～写 32 の昇順である。なお、写 33～写 36 は西地区への用水路である。

注

注 5) 参考文献〔1〕の 226 頁、参考文献〔2〕の 426 頁を参照および参考文献〔6〕の 244～245 頁をそれぞれ参照。

十二社宮（福岡市早良区脇山大字 2262：谷口バス停から入る）

谷口に在り、祀る神は十二座（諏訪明神、鹿嶋明神、三嶋明神、巖嶋明神、大社大神、八幡大神、住吉大神、淀姫大神、高良明神、龍王乃神、志賀明神および熊野権現）で、谷口および西村の内、上原・原田・寺地の産神である^{注6)}。この十二座に熊野権現が在り、比丘尼により勧請されている。比丘尼は生の松原を經由してこの地に来て居を構えている。十二社宮は、平安時代の貞観（じょうがん）年間（859～877 年）に、この居の跡に建てられているとのことであった^{注7)}。十二社宮の写真は写 37～写 39 である。

注

注 6) 参考文献〔1〕の 236 頁、参考文献〔2〕の 426 頁および参考文献〔5〕の 277 頁をそれぞれ参照。

注 7) 西日本新聞朝刊 2019 年 5 月 6 日のふくおか都市圏版より引用。

三社宮と円珠院（福岡市早良区西 2118-1：西の上広瀬）

上広瀬にある三社宮は、その宮の説明板の縁記によれば、熊野三山[本宮大社（阿弥陀如来）、速玉大社（薬師如来）および那智大社（千手観音）]を祭神としている。元々、熊野は平安末期から全国的な信仰を集め多くの巡礼者がこの山岳霊場をめざし、歩を進め、遠くは九州・東北にわたる信仰がひろまったとのことで、自然の象徴として山を神格化し、神仏習合の色彩が強い熊野三山として一体的に発展してきている。すなわち、熊野三山は

土着的な神祇信仰（神道：自然信仰：アニミズム：animism）と文化的要素の仏教信仰とが一体化した神仏習合となっている。三社宮境内には天台宗の寺院である円珠院があり、御本尊は不動明王である。また、この境内には楠木の太木があり御神木となっている^{注8)}。三社宮と円珠院の写真は写40～写44である。

注

注8) 参考文献〔2〕433頁を参照。

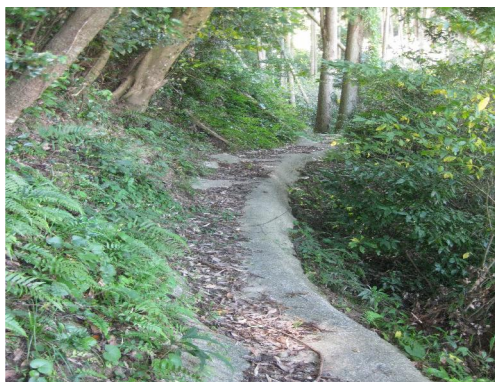
比丘尼之碑と墓



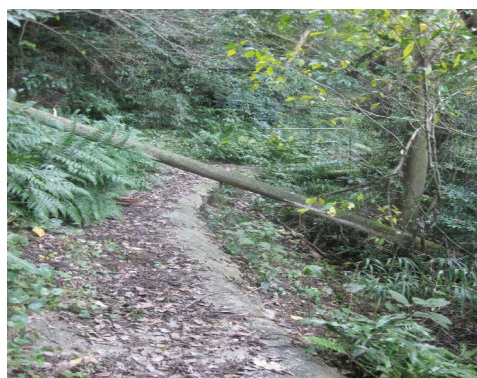
写 1 136 号線沿いの鉄塔の山が比丘尼の墓と碑



写 2 比丘尼の墓と碑の北側登り口 (136 号線から左)



写 3 登り口から直ぐのところ (右は沢)



写 4 登山堂に倒木有 (右は沢)



写 5 沢に 1 人用の橋が架かっている



写 6 道なりに上ると階段へ



写7 石段 1



写8 石段 2



写9 石段を登りつめた場所



写10 山頂の比丘尼の墓と碑の全景



写11 比丘尼の墓 1



写12 比丘尼の墓と碑 1



写 13 比丘尼の墓の近くにあるヒノキの大木



写 14 比丘尼の墓と碑 2



写 15 比丘尼の墓 2



写 16 比丘尼の墓と碑 3 (碑の後ろに鉄塔がある)



写 17 比丘尼西側登山ルート 1



写 18 比丘尼西側登山ルート 2

吊溝



写19 吊溝出発地点（旧西神原バス停から南へ）



写20 分岐を左へ



写21 分岐からの左の道を下る



写22 下って突き当りを右へ



写23 右に曲がってあとは直進



写24 左下は椎原川、右は吊溝



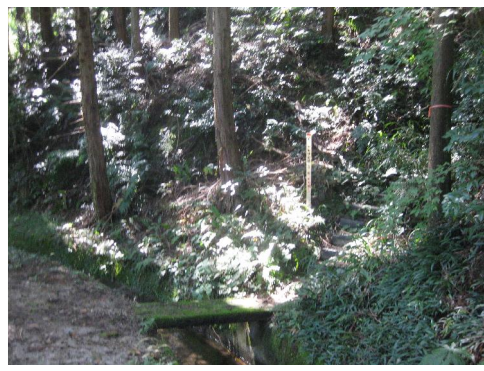
写 25 左下は椎原川、この道を直進する



写 26 吊溝の流れ 1



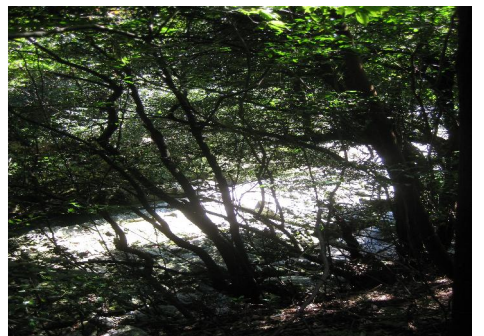
写 27 吊溝の流れ 2



写 28 吊溝の流れ 3



写 29 吊溝の流れ 3



写 30 椎原川の流れ



写 31 吊溝（椎原川からの取り込み水門）



写 32 左は椎原川、右は吊溝（取り込み口）



写 33 「西」の旧神の原バス停跡



写 34 「西」の吊溝からの溝 1



写 35 「西」の吊溝からの溝 2



写 36 「西」の吊溝からの溝 3

* : 「西」は字（あざな）である。

十二社宮



写 37 十二社宮の石段



写 38 十二社宮の鳥居



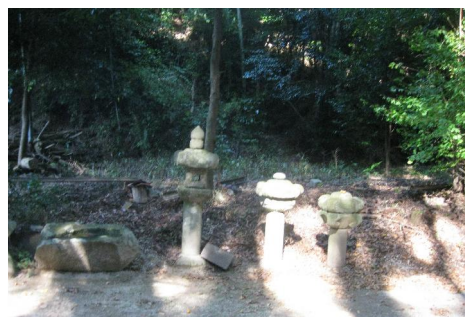
写 33 十二社宮 1 (正面本殿)



写 34 十二社宮 2



写 35 十二社宮 3 (左が本殿)



写 36 十二社宮 4 (石灯籠)



写 37 境内の主基斉田の碑



写 38 主基斉田の碑の横にある手水鉢



写 39 十二社宮からみた比丘尼碑の山と椎原川遠望 1

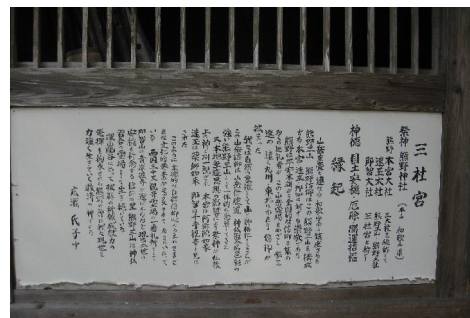


写 39 十二社宮からみた比丘尼碑の山と椎原川遠望 2

三社宮と円珠院



写 40 三社宮と不動明王円珠院



写 41 三社宮の縁起



写 42 不動明王円珠院



写 43 三社宮と不動明王円珠院（手書きの説明）



写 44 三社宮と不動明王円珠院の巨木のクスノキ

2. 横山神社、主基齊田勅使碑、笠掛天神森、池田大日堂および野中公園と納骨堂裏などの比丘尼関連遺構とその付近の遺構について

横山神社には神功皇后と十二社宮（比丘尼、主基齊田関係）、宰府道付近の舟石および笠掛天神森、横山神社への移設前の野中への途中にある天満宮や九州農士学校跡などの遺構がある。

横山神社（福岡市早良区大字脇山 559-1）

横山神社の説明板によれば、神功皇后が新羅への航路を知るために脊振にのぼられ、武内宿称に命じて脇山で斎宮を造らせ天神地祇を祭り、自ら神主となり神教を祈請することにより、神の教えに従って、神々の援助を受け新羅出兵を行い、無血征服をおこなっている。皇后は 201 年に帰国し、202 年に斎宮の跡（主基齊田勅定の地）に神社を建立されているが、この神社が脊振神社であるとのことである。

その下宮である横山郷（現在の早良区板屋、椎原、脇山、小笠木、西、内野、石釜および曲淵の 8 ケ村）の総社が野中から大門に移設されて、横山三社となっている^{注9)}。祭神は田心姫命（タゴリヒメノミコト：沖津宮）、湍津姫命（タギツヒメノミコト：中津宮）および市杵島姫命（イチキシマヒメノミコト：辺津宮）の宗像三神であり、脊振神社と祭神と同じである。末社としては、八幡宮、菅原神社、大山積神社がある^{注10)}。また、境内には大木と無病健康力石がある。横山神社の写真は写 45～写 56 である。

注

注 9) <http://www.city.fukuoka.lg.jp/sawaraku-tamatebako/odekake/shiseki/yokoyama.html> より引用。

注 10) 参考文献〔2〕の 236 頁および参考文献〔5〕の 275 頁をそれぞれ参照。

主基齊田勅使碑（野田：福岡市早良区大字脇山 303-5 の野田公民館付近）

1928（昭和 3）年 11 月 10 日に京都礼紫宸殿で昭和天皇即位の礼である大嘗祭に献上される新米が現在の脇山の主基齊田跡で作られたが、その地が採用されたことを勅使が伝達にみえたときの石碑が早良区野田にある。主基齊田跡の詳細は参考文献〔12〕および参考文献〔7〕をそれぞれ参照されたい^{注11)}。写真は写 57 と写 58 である。

注 11) 参考文献〔12〕の書籍以外ではつぎの URL をご覧いただきたい。

<http://www.ip.kyusan-u.ac.jp/J/uchiyama/zokusawaramap.pdf> あるいは

<http://www.ut.saloon.jp/index10.htm> 参照されたい。

笠掛天神森（福岡市早良区大字小笠木 403 の早良高校西側付近）

栗原に森があるが、代々受け継がれていることによれば、菅公が太宰府に趣くとき、庄村（現在の早良区室見 4-3-2 の少童神社に菅公腰掛石）、入部村（現在の早良区東入部 2-14 の松ヶ根の井で手を清め、今の老松神社に参拝：入部出張所の東側の旧早良街道沿い）および内野村を通り、この地に来て休息されている。その際、傍らの樹に笠を掛けて休まれたことから笠掛天神森と呼ぶようになったとのことである^{注12)}。その先には旧道（宰府道）から県道 55 線に出て小笠木峠に向かう付近に、菅公が太宰府に行かれるときに乗ってきた舟が石に変わったという伝承の舟石（早良区小笠木）がある。笠掛天神森であろうとされる写真は写 59～写 61 である。舟石の写真は写 83～写 86 である。老松神社の写真は写 88、松ヶ根の井の写真は写 87 である。

注

注 12) 参考文献〔1〕の 235 頁および参考文献〔5〕の 285～286 頁よりそれぞれ引用。

池田大日堂（福岡市早良区大字脇山 1678）

池田大日堂は脊振山東門寺別院跡に池田大日堂がある。大日如来は真言密教の教主の仏であるが、説明板によれば、本尊は木造大日如来坐像である。その坐像は総高 130.5cm、像高 80.8cm で、1538（天文 7）年、脇山、内野および小笠木の有力農民や東門寺の僧侶、当時の大内氏被官（ひかん：官吏の私的な使用人）の早良郡代等が現生の安穩と極楽浄土を願って造立し、作者は室町時代後期の地元の仏師によるものと伝えられているとのことである^{注13)}。この大日堂の境内に山伏大教坊（中納言藤原兼光）の墓があり、大日堂の西南 3 町に大教坊の池田城があった^{注14)}。大教坊および池田城については参考文献〔12〕を参照されたい^{注15)}。池田大日堂の写真は写 62～写 65 である。山伏大教坊の墓の写真は写 66 と写 67 であり、池田城へのルートの中までの写真は写 68～写 70 である。

注

注 13) 参考文献〔1〕の 236～238 頁および参考文献〔2〕の 427 頁～429 頁からそれぞれ参照。

注 14) 参考文献〔15〕の 134 頁を参照。

注 15) 参考文献〔12〕の 90 頁の池田城ルートを参照されたい。

野中公園と納骨堂裏（福岡市早良区大字脇山 2438 付近）

野中公園をここで取り上げたのは比丘尼と関連ある横山神社が野中から移設されたとのことであったからである。十二社宮が当時の野中という地名であったかもしれないが、野

中は脇山野営場前バス停と谷口バス停との中間にあり十二社宮と離れている。野中公園とその近くにある納骨堂裏のスペースが旧野中ではないかと考え取り上げている。野中公園と納骨堂裏の写真は[写 79]～[写 82]である。

池田大日堂から野中公園までの間には、比丘尼とは直接的な関係はないが、天満宮・旧脇山小跡および九州農士学校跡の史跡がある。天満宮は脇山門戸口にあり、祭神は菅原神、五穀大神、猿田彦命および大山祇積命であり、ここには脇山小学校の跡地と慰霊それぞれの碑がある^{注16)}。天満宮内の写真は[写 71]～[写 74]である。また、九州農士学校跡は、1931(昭和6)年松本学福岡県知事を中心に創立、金鷄学園[陽明学者の安岡正篤が1926(大正15)年4月に開いた私塾、1931年埼玉県比企郡菅谷村に日本農士学校を設立]より伊藤角一学監が着任し、1932(昭和7)年に第一期生を受け入れている。1946(昭和21)年6月に財団法人九州農士学校と改名し、1964(昭和39)年11月に閉校解散するまで青森県から沖縄県まで総数256名の人材を送り出したとのことである。この地にこの学校ができたのは脇山の地に大嘗祭主基齊田縁の地であったからだということであった^{注17)}。その地は現在脇山野営場となっている。九州農士学校跡の写真は[写 75]～[写 78]である。

注

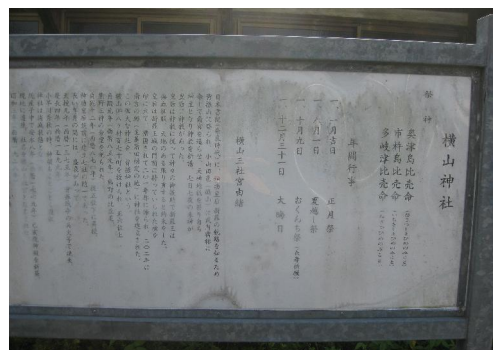
注16) 参考文献〔5〕277頁を参照。

注17) <http://www.heartfultime.com/html/tmi/img/kappa201110282.pdf> の青柳正彦氏講演集「農士学校の沿革」より引用。

横山神社



写 45 横山神社 1



写 46 横山神社三社宮の由緒



写 47 横山神社 2



写 48 横山神社本殿 (正面奥)



写 49 手水鉢



写 50 拝殿順序



写 51 三社宮 (横山神社内)



写 52 大山祇神社 (横山神社内)



写 53 天満宮 (横山神社内)



写 54 八幡宮 (左) と宮地嶽神社 (右) (横山神社内)



写 55 無病健康の石 (力石)



写 56 横山神社境内

主基齊田勅使碑



写 57 主基齊田勅使碑 1



写 58 主基齊田勅使碑 2

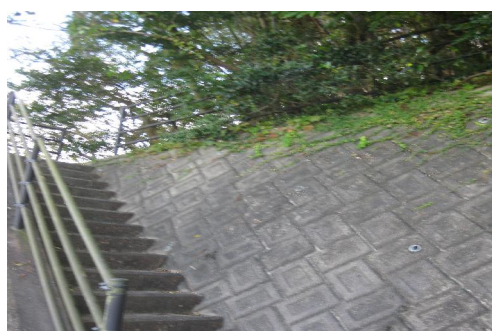
笠掛天神森



写 59 栗尾バス停からの笠掛天神森



写 60 松の木橋からの笠掛天神森



写 61 笠掛天神森への石段



写 61 笠掛天神森の中

池田大日堂



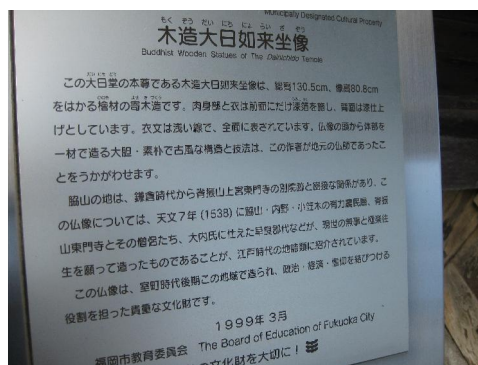
写 62 池田のバス停から左折して池田大日堂へ



写 63 池田大日堂鳥居



写 64 池田大日堂本堂



写 65 木造大日如来坐像説明板



写 66 山伏大教坊（中納言藤原兼光）の墓 1



写 67 山伏大教坊の墓 2



写 68 池田城登山入口（池田大日堂近く：東南）



写 69 分岐を右



写 70 分岐から右に進んだ地点

写真の続きは『続早良逍遥マップ記』で、また作業小屋から 2 か所の見張り台池田城への経路の地図も掲載（43 頁の地図と 74 頁の写真）。
書籍は福岡市総合図書館、福岡宴率図書館、国会図書館、九州産業大学図書館および市内の各大学図書館に
(URL) <http://ut.saloon.jp/index10.htm>
<https://www.ip.kyusan-u.ac.jp/J/uchiyama/zokusawaramap.pdf>

天満宮と旧脇山小跡



写 71 天満宮の鳥居



写 72 天満宮の社殿



写 73 天満宮境内にある旧脇山小学校跡



写 74 天満宮境内にある慰霊碑

九州農士学校跡（旧福岡農士学校跡）



写 75 九州農士学校跡の石柱



写 76 九州農士学校跡への入口（石段）



写 77 九州農士学校跡 1



写 78 九州農士学校跡 2

野中公園と納骨堂裏



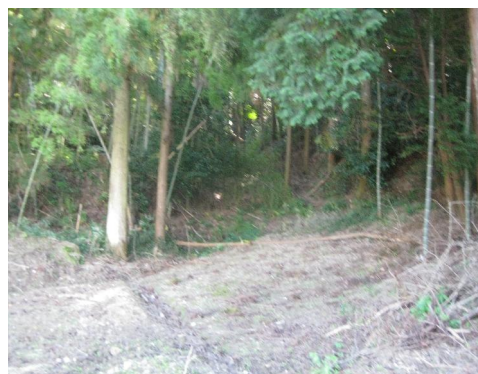
写 79 野中公園 1



写 80 野中公園 2



写 81 野中公園裏の納骨堂裏 1



写 82 野中公園裏の納骨堂裏 2

舟石



写 83 56号線福岡・早良大野城線からの入口



写 84 舟石



写 85 舟石 2



写 86 舟石 3

老松神社



写 87 老松神社

松ヶ根の井



写 88 松ヶ根の井

3. 小戸大神宮、小戸妙見神社、相ヶ浜、御膳立および熊野神社など比丘尼関連遺構について

ここでは比丘尼が生松原に着き、尼僧が居住したとされる現在の脇山谷口の十二社宮までの足跡と、生松原に近接の小戸大神宮、小戸妙見神社、相ヶ浜、御膳立および熊野神社と関連遺構について記述する。

小戸大神宮（福岡市西区小戸 2-6 の小戸公園内）

小戸大神宮は、伝説によれば、伊弉諾（いざなぎ）の神の禊払いをしたところで天照大神、志賀三神[仲津綿津見神（なかつわたつみのかみ）、底津綿津見神（そこつわたつみのかみ）、表津綿津見神（うはつわたつみのかみ）]、住吉三神[底筒男命（そこつつのおのみこと）、中筒男命（なかつつのおのみこと）、表筒男神（うわつつのおのかみ）]が出現したという由緒の地とされている。これらの神々の御降誕され神功皇后の御出師および凱旋上陸された地でもある。1725（享保 10）年に功崇公（筑前福岡藩の第 6 代藩主黒田継高の戒名が功崇院章山道善）によって社殿を建立されている。神宝は海中から銅矛 2 本で、漁民により海中から引き揚げられ髯飾（そうしょく）して藩主より寄納されている。社境に神功皇后の御腰掛石御船石が二石ある^{注 18)}。また、小戸大神宮が祀られている山の頂上には幕末期の砲台跡といわれている場所がある。小戸大神宮の写真は写 R1～写 R7 である。

注

注 13) 参考文献〔1〕の 186 頁、参考文献〔8〕の 46～48、参考文献〔9〕の 136～139 頁、参考文献〔10〕の 67～74 頁、参考文献〔11〕の 180～190 頁および参考文献〔3〕の 450 頁をそれぞれ参照。

小戸妙見神社（小戸公園内）

小戸妙見神社の祭神は、由来の説明板によれば、北辰明神（天之御中主神：あめのみなかぬしのかみ）、北辰妙見菩薩および青龍王神としている。この地は参考文献〔3〕の 450 頁には「小戸の西を妙現（見）崎といい、そこには妙現（見）の祠がある。この地に平らなる岩がある。百合若大臣^{注 14)}の馬の足形という窪地が多くある所である。妙現の西の浜は生松原につづいている。」との記述がある。妙見信仰は千数百年前の奈良、平安にかけて庶民の間に親しまれ全国的な信仰を集めていた。しかし、妙見と称する名は残っているが時の流れに衰微している^{注 15)}。

また、由来の説明板によれば、2003 年より十数年前にある人の夢枕に龍神が瑞驗（ずいげん：めでたい出来事がおこる前触現象）し、霊告により導かれ、地中に埋没していた現社殿の屋根にある古石を掘り起こしたのが発端であるとのことである。事情があり、地面に

放置されたままであったのが、2002年1月、心ある人々の手によって再建され、2003年4月に改築され現在に至っているとのことである。なお、妙見信仰はインドに発祥した菩薩信仰が、中国で道教の北極星・北斗七星信仰と習合し、仏教の守護神としてわが国に伝来したものである。なお、神社内には幕末末期の砲台跡がある。小戸妙見神社の写真は写 R8～写 R11である。

注 14) 蒙古襲来に対する討伐軍の大將に任命され、神託により持たされた鉄弓を用いて、遠征で勝利を果たしたが、部下によって孤島に置き去りにされた。妻が宇佐神宮に祈願すると帰郷が叶い、裏切り者を成敗するという内容の読み物である (Wikipedia より引用)。

注 15) 早良区には油山の北に妙見山があり、山頂近くには妙見岩 (雨乞いに利用)、山号として妙見山徳栄寺 (日蓮宗) および西区には金武に妙見神社がある。

相ヶ浜 (あこめがはま : 小戸公園内)

相ヶ浜の由来は、貝原益軒によれば、神功皇后が三韓遠征の凱旋御歸の時、12月4日にこの地着き相^{注16)}の御衣を掛けて干したことから相ヶ浜と號し、いつのころからか姪浜と言っているとのことである^{注17)}。相ヶ浜の写真は写 R12と写 R13である。なお、鎧掛松の写真写 R19は1933 (昭和8) 年当時の小戸大神宮にあったものである。

注 16) 相の正式名称は相衣 (あこめぎぬ) と言い、肌着と表着との間に「相籠 (あいこめて) 着ることから、その名がある (Wikipedia より)。

注 17) 参考文献〔3〕の449頁を参照。

御膳立 (ごぜんだち : 小戸公園内)

相ヶ浜の妙見岬と反対の南の海崖 (かいがい) に御膳立という所がある。礮岩 (いそいわ) の形が膳椀を置き並べたようになっている。また、御膳立は百合若大臣の馬蹄石ではないかともいわれている^{注18)}。現在、御膳立は海中に配膳の形をした岩盤が24個あるとのことである^{注19)}。御膳立の写真は写 R14～写 R18である。

注 18) 参考文献〔1〕の186頁から引用。

注 19) <https://yokanavi.com/spot/27063/> より引用。

熊野神社（福岡市西区拾六町 5-4-7）

早良脇山の比丘尼は紀州熊野から生の松原を經由して脇山の地へ来たとのことを、**比丘尼之碑と墓**のところで述べた。生の松原は**写 R17**のように相ヶ浜と近接している。この生の松原には元寇防塁（石築地：鎌倉時代に博多湾沿岸一带に築かれた石による防塁である。また、**写 R31**～**写 R47**が元寇に関する遺構の写真である。）と壱岐神社（神功皇后の大臣である武内宿禰の身代りになって無実の罪に服して死んだ壱岐値真根子を祀っている。壱岐神社の写真は**写 R28**～**写 R30**）がある^{注20}。また、この生の松原という呼び名は神功皇后三韓遠征のとき松の枝を逆さまにさして戦勝を占ったとき、その枝が生きて栄えたことに由来する^{注21}。また、この壱岐神社には壱岐値真根子とともに熊野権現も相殿（あいどの）されている^{注22}。

私見ではあるが、比丘尼（複数人数？）がなぜ生の松原に上陸したかは、相ヶ浜に近接したところではないかと思われる。その地から壱岐神社、ここで取り上げる熊野神社について、福岡市西区役所の説明板によれば、熊野神社が創建された時期は不明であるが、1293（永仁元）年に生の松原に熊野神社が祀られたことが「旧壱岐神社文書」に記されているとのことである。『筑前國續風土記拾遺 下巻』に記述されている新宮大明神社は「与納」の地にあり、十六町、石丸および下山門等の産神である。祭神は熊野三神伊弉册尊、事解男命、速玉男命）であり、社殿にこの社は859（貞観元）年より村南五町（約545m）の大堂山に熊野より鎮座し、1130（大治5）年に今の地である薬師山に遷座奉られている。1658（万治元）年の再建には吉田六郎太夫増年、加藤半左衛門重直、黒田平左衛門重積等から神祠（しんし：神のやしる）造立の資材を囀（ほどこ）している。社内に天神社、大日堂、薬師堂、文殊堂が祀られている^{注23}。熊野神社の写真は**写 R20**～**写 R27**である。

注20) 詳細は参考文献〔12〕および〔13〕の壱岐神社および元寇の箇所を参照されたい。

注21) 参考文献〔3〕の452頁を参照。

注22) 同書の455頁および参考文献〔1〕の200頁よりそれぞれ引用。

注23) 参考文献〔1〕の198頁と199頁をそれぞれ参照。

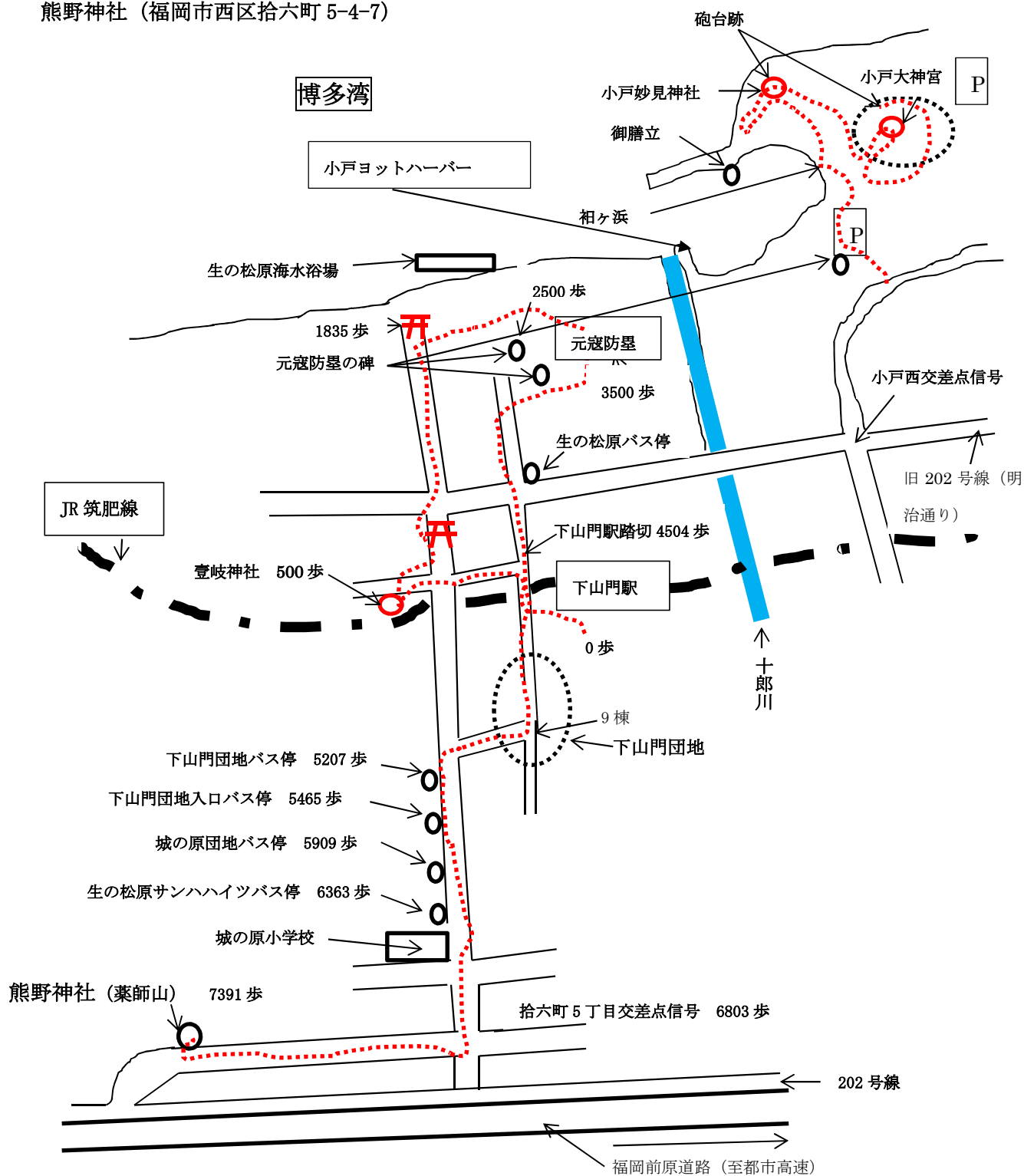
小戸大神宮 (福岡市西区小戸 2-6 の小戸公園内)

小戸妙見神社 (小戸公園内)

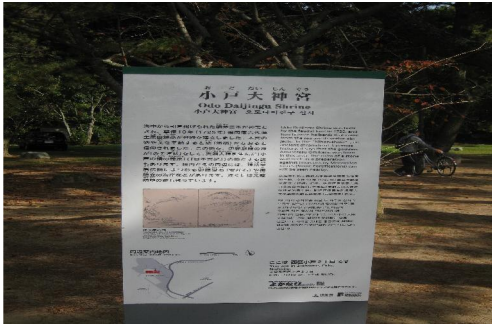
相ヶ浜 (あこめがはま : 小戸公園内)

御膳立 (ごぜんだち : 小戸公園内)

熊野神社 (福岡市西区拾六町 5-4-7)



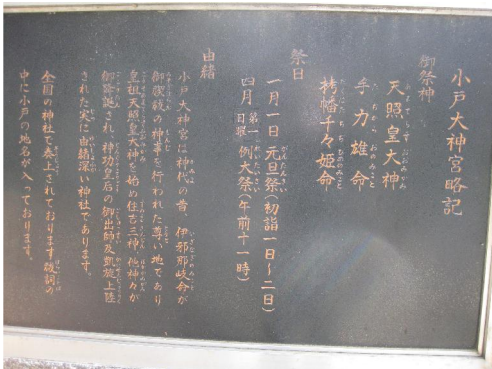
小戸大神宮



写 R1 小戸大神宮説明板



写 R2 小戸大神宮 1



写 R3 小戸大神宮略記



写 R4 小戸大神宮手水鉢



写 R4 小戸大神宮内天満宮



写 R5 小戸大神宮にある神功皇后の休憩安産石 1



写 R6 小戸大神宮にある神功皇后の休憩安産石 2



写 R7 小戸大神宮が祀られている山の頂上：砲台跡

小戸妙見神社



写 R8 小戸妙見神社の鳥居



写 R9 小戸妙見神社



写 R10 小戸妙見神社拝殿



写 R11 小戸妙見神社拝殿裏の砲台跡

相ヶ浜



写 R12 相ヶ浜



写 R13 御膳立付近の相ヶ浜

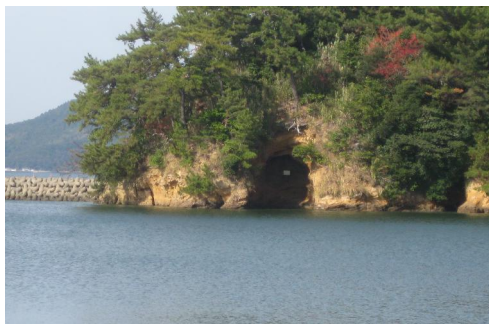
御膳立



写 R14 御膳立付近 1



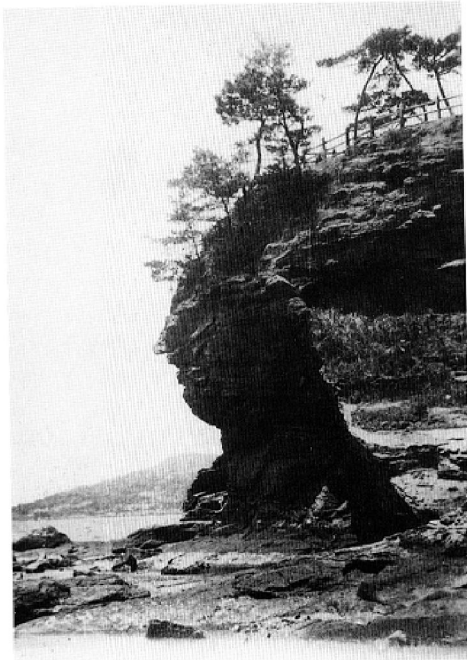
写 R15 御膳立付近 2



写 R16 御膳立付近 3



写 R17 御膳立付近の山頂から生の松原
を遠望



昭和15年 御膳立

写 R18 1940 (昭和 15) 年当時の御膳立



昭和 8 年 小戸大神宮の鎧掛松

写 R19 1933 (昭和 8) 年当時の小戸大神宮の鎧掛松

姪友会古里研究会編集『郷土写真集 姪浜とその周辺～私たちが育った町～』姪友会, 2002 (平成 14) 年 2 月 11 日.
御膳立の写真は 55 頁、鎧掛松は 58 頁から引用.

熊野神社



写 R20 熊野神社の鳥居



写 R21 熊野神社の説明板



写 R22 熊野神社の社殿 1



写 R23 手水鉢



写 R24 熊野神社の拝殿 2



写 R25 大日如来像殿



写 R26 左が大日堂、右が薬師堂



写 R27 境内の五重塔

その他



写 R28 壱岐神社と鳥居



写 R29 壱岐神社の説明板



写 R30 生の松原海岸の壱岐神社鳥居



写 R31 生の松原の元寇防塁 1



写 R32 生の松原の元寇防塁 2



写 R33 生の松原の元寇防塁説明図 1



写 R34 生の松原の元寇防塁説明図 2



写 R35 生の松原の元寇防塁 3



写 R36 小戸公園内元寇防塁跡



写 R37 早良区百道 1 丁目の元寇防塁跡 (西新墓地の隣)



写 R38 早良区西新 7 丁目の元寇防塁 1



写 R39 早良区西新 7 丁目の元寇防塁 2



写 R40 早良区西新 2 丁目 23 付近の松山稲荷神社説明板



写 R41 松山稲荷神社



写 R42 中央区地行 2-12-19 の元寇防塁跡 1



写 R43 中央区地行の元寇防塁跡 2



写 R44 中央区鳥飼 3-3-5 埴安神社に社殿内にある
元寇のときの塩屋の松でできた扁額



写 R45 中央区鳥飼の埴安神社(境内に金子堅太郎
生誕の碑がある)



写_R46 早良区昭代2の祖原公園内の元寇鹿原戦跡



写_R47 元寇鹿原戦跡

〔I部の参考文献〕

- 〔1〕 青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版, 1993年6月.
- 〔2〕 加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版, 1977年12月.
- 〔3〕 貝原益軒編／伊藤尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版, 2001年6月.
- 〔4〕 新村 出編『広辞苑 第五版』岩波書店, 2006年1月.
- 〔5〕 福岡地方史研究会編『福岡市歴史散策』海鳥社, 2005年12月.
- 〔6〕 福岡県早良郡役所編『早良郡志』名著出版, 1973年2月.
- 〔7〕 歴史学研究会編『日本史年表 第四版』岩波書店, 2001年12月.
- 〔8〕 坂本太郎・家永三郎・井上光貞・大野晋校注『日本書紀(一)』岩波文庫, 1999年9月.
- 〔9〕 坂本太郎・家永三郎・井上光貞・大野晋校注『日本書紀(二)』岩波文庫, 1999年9月.
- 〔10〕 次田真幸全訳注『古事記(上)』講談社, 2007年12月.
- 〔11〕 次田真幸全訳注『古事記(中)』講談社, 2008年12月.
- 〔12〕 内山敏典『早良逍遥マップ記 - 歩いて歴史を訪ね、未来に繋ぐ - 』城島印刷所, 2003年12月.
- 〔13〕 内山敏典『続早良逍遥マップ記 - 鉄道跡を歩いて、未来に繋ぐ - 』城島印刷所, 2005年1月.
- 〔14〕 柳猛直『福岡歴史探訪 早良区編』海鳥社, 1995年11月.
- 〔15〕 吉永正春『筑前戦国史』葦書房, 1997年6月.

第Ⅱ部 椿水路およびその関連遺構

第Ⅱ部では旧早良区の近世の用水路の一つである椿水路を取り上げている。椿水路は、江戸時代において、室見川東側の早良平野中央部から東側の田畑を潤すために開削された水路であり、現在の入部周辺および野芥周辺を流れ賀茂神社まで続いていた^{注24)}。賀茂神社は、荒平山を源流とする金屑川の傍にあり、現在の西油山を源流とする油山川はもともと旧稲塚川と旧油山川であり、現在の福岡市立室見小学校傍、そのあとには室見川と合流し博多湾に流れている。この椿水路は油山川にもつながっていて、椎原川・小笠木川（室見川支流）および金屑川につながり、最後は下流で室見川につながっている^{注25)}。ところで、椿水路の椿の謂れは東入部村の堰の入口近くに椿や椿谷という地名があったことに由来する^{注26)}。そして、福岡市地下鉄七隈線の野芥駅のシンボルマークが椿水路（写 1-46）であることもこのようなことからである。旧油山川は2003年ごろまで参考文献〔9〕にみるように稲塚川が記載されており、現在の飯倉に稲塚橋（いなつかはし）および下稲塚橋がある^{注27)}。椿水路に関連する遺構は参考文献〔14〕および〔15〕に詳細に記載しているので割愛しているが、マップと各表に遺構や地名を記載している点に留意していただきたい。

第Ⅱ部の構成は、1. 椿水路：椿水路経路 1（一ツ家・大坪橋から賀茂神社まで）、2. 椿水路：椿水路経路（西友サニー重留店裏から賀茂神社まで）、3. 油山川（旧稲塚川）〔幸田橋（干隈三差路信号付近）から深町橋（ふかまちばし）〕、4. 旧油山川〔飯倉 7 丁目 20〔油山川（旧稲塚川）〕から飛石橋（金屑川：旧稲塚川、旧油山）〕および 5. 油山川（飯倉 7 丁目 20）から賀茂神社前への水路である。

以下のマップは椿水路、室見川（含：椎原川・小笠木川）金屑川、油山川（旧稲塚川、旧油山川）の関係図であり、また各表はマップ内に写真番号が書ききれないので、各椿水路および河川をそれぞれ逍遥したときの目印となる箇所の写真番号を記載している。

注 24) 参考文献〔14〕の 18 頁を参照されたい。併せて、つぎのブログを参照されたい。

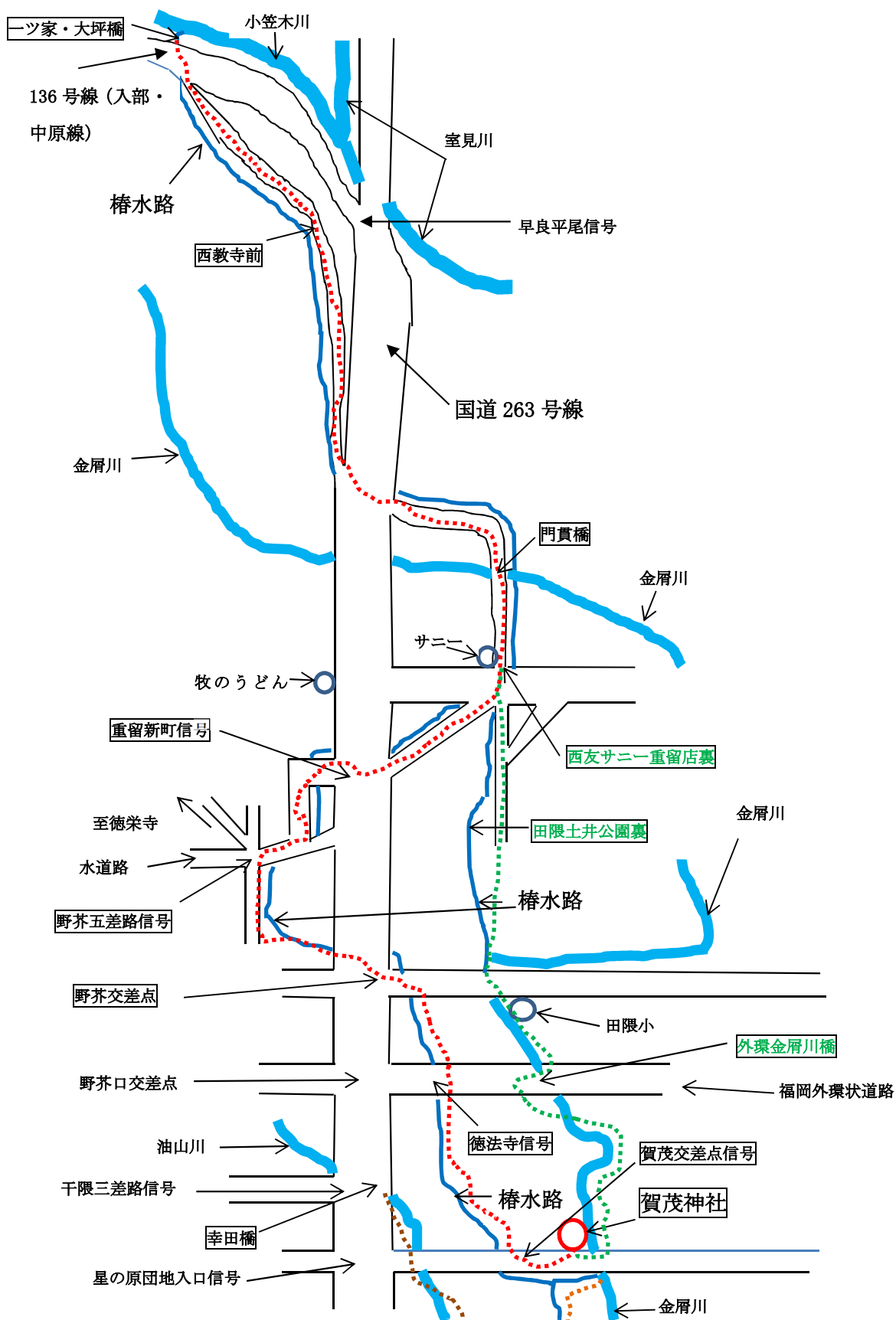
<http://blog.livedoor.jp/mizupurojekuto/archives/50635495.html> によれば、椿水路は第 2 次大戦後、入部村と田隈村の共同で石積みの堰が再建された記念碑が椿水路と小笠木川との間に 1950（昭和 25）年 7 月 25 日竣工の記念碑がある。堰がある場所が入部村で、水路の流れ先が田隈村ということである。

注 25) 参考文献〔5〕、〔8〕および〔17〕には旧稲塚川や旧油山川の記載がある。

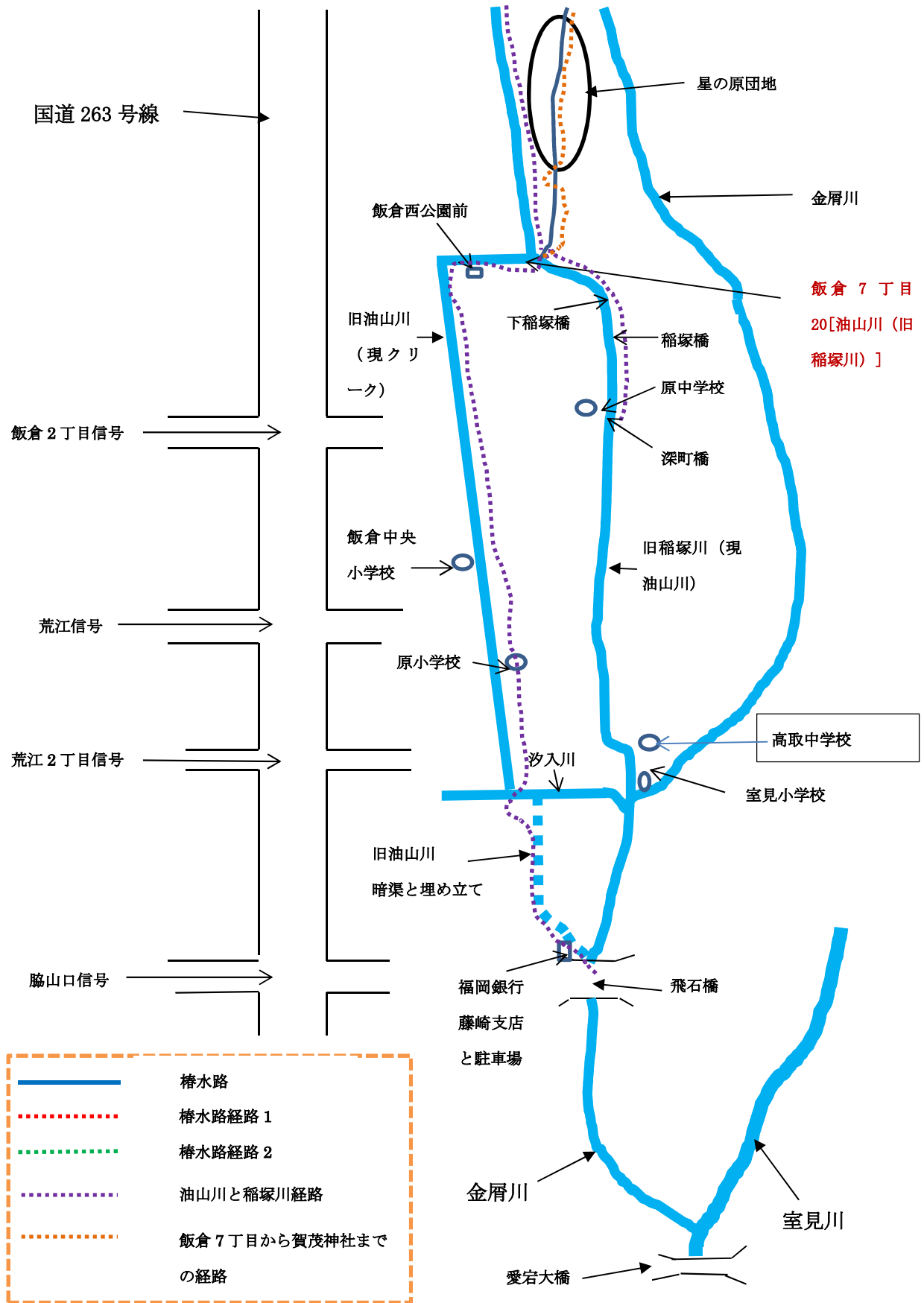
注 26) 参考文献〔12〕の 93 頁を参照。また、参考文献〔4〕である『早良郡志』の 201 頁に「本村の灌漑は主として室見川に依り、椿・・・」の記述がある。さらに、注 24) のブログにも椿谷の記述がある。

注 27) 参考文献〔8〕の 40 頁、参考文献〔12〕の 86 頁にもその記述がある。

椿水路（福岡市早良区東入部 8-26 付近から早良区賀茂 1-29-14 付近まで）
 （金屑川、稲塚川、油山川、室見川および小笠木川との関係）



(つづき)



椿水路1:椿水路経路1

順路	場 所	歩数	写 真
1	一ツ家・大坪橋(福岡市早良区東入部8-26付近)	0	写1-1、写1-2
2	136号線(入部・中原線)を渡る(ここから旧早良街道)(東入部8-28付近)	243	写1-3、写1-4
3	仙弘院入口の看板前(早良区東入部8-28付近)	507	写1-5
4	福岡市水道局埋設碑	890	写1-6、写1-7
5	早良区東入部8-13付近	1375	写1-8
6	早良平尾信号付近の旧早良街道	1611	写ナシ
7	西教寺前付近	1786	写1-9
8	平尾公民館前付近(東入部8-11付近)	1916	写1-10
9	香楠荘前(東入部2-14付近)	2830	写1-11、写1-12
10	松ヶ根の井	2986	写1-13、写1-14
11	熊本公民館前	3207	写1-15
12	東入部2-20	3364	写1-16
13	入部小学校正門前付近	3746	写1-17、写1-18
14	東入部2-9-26前	3965	写1-19
15	旧早良街道	4054	写ナシ
16	国道263号線を渡って旧早良街道を北	4224	写1-20
17	東入部3-2	4529	写1-21
18	ディスカウント ドラッグコスモス東入部店裏	4650	写1-22
19	金屑川との合流点(門貫橋)と取水口	4881	写1-23
20	金屑川からの取水された椿水路	5092	写1-24
21	元クレイン乗馬クラブ付近から金屑川は左へ(拝塚古墳跡付近)	5579	写1-25
22	西友サニー重留店裏(旧早良街道)	5911	写1-26、写1-27
23	重留新町信号(渡る)	6480	写1-28
24	水道路	7071	写1-29
25	野芥五差路信号(徳栄寺入口門)	7402	写1-30
26	野芥縁切地蔵尊前(ここまで旧早良街道)	7692	写1-31
27	円応院前(野芥4-17)	8081	写1-32
28	ふくや野芥店裏	8325	写1-33
29	(263号線を渡る)	-	写真ナシ
30	草野医院	8599	写真ナシ
31	野芥交差点(西側)	8795	写1-34
32	福岡銀行野芥支店裏(田隈保育所前)	9268	写1-35
33	徳法寺交差点信号	-	写1-36
34	徳法寺交差点信号(北へ渡ったところ)	10077	写1-37
35	大藪児童広場(早良区賀茂2-13)	10273	写1-38、写1-39
36	賀茂交差点信号	11646	写1-40
37	賀茂公民館入口	11940	写1-41
38	賀茂公民館入口前の分岐水路	-	写1-42
39	賀茂神社(金屑川に通じる)	12110	写1-43、写1-44、写1-45
40	福岡市地下鉄七隈線野芥駅シンボルマークは椿水路	-	写1-46

椿水路2: 椿水路経路2

順路	場 所	歩数	写 真
1	西友サニー重留店裏(旧早良街道)	0	写2-1、写2-2
2	早良新町公園前	172	写2-3
3	野芥7-39付近	720	写2-4
4	野芥7-3-38付近	800	写2-5
5	田隈土井公園裏	1483	写2-6、写2-7
6	(暗渠)	-	写ナシ
7	西福岡テニスクラブ裏(暗渠)	1768	写2-8
8	(なかよし歯科の前の道路を渡る)	-	写ナシ
9	田隈3-23-24	2075	写2-9
10	田隈3-6付近の橋	2525	写2-10
11	田隈小学校(椿水路が金屑川に通じる)信号	2901	写2-11、写2-12、写2-13、写2-14
12	(以降、金屑川)	-	
13	田隈2-4-2付近	3373	写2-15
14	内林(うちばやし)公園前	3650	写2-16
15	大町橋	3879	写2-17
16	池ノ坪橋	4280	写2-18
17	外環金屑川橋(そとかんかなくずがわばし)	4483	写2-19、写2-20
18	賀茂小南信号	4766	写2-21
19	水町橋	5027	写2-22、2-23
20	新開橋(しんびらきばし)付近	5362	写2-24
21	賀茂神社	5509	写2-25、写2-26

油山川(旧稲塚川)

順路	場 所	歩数	写 真
1	幸田橋(干隈三差路信号付近)	0	写3-1
2	大坪橋	291	写3-2
3	原人道橋(はらじんどうきょう: 飯倉小学校裏)	745	写3-3
4	上学橋(じょうがくばし: 飯倉8丁目19付近)	892	写3-4
5	飯原公園	1121	写3-5
6	賀茂神社前の水路からつづく水路出口(飯倉8丁目14)	1215	写3-6
7	下稲塚橋(しもいなつかはし)	1284	写3-7、写3-8
8	稲塚橋	1592	写3-9、写3-10
9	深町橋(ふかまちばし)	1935	写3-11、写3-12

旧油山川

順路	場 所	歩数	写 真
1	飯倉7丁目20[油山川(旧稲塚川)]	0	写4-1、写4-2、写4-3
2	飯倉西公園前	472	写4-4
3	カーブ	601	写4-5
4	飯倉幼稚園前	914	写4-6
5	飯倉4丁目信号	1271	写4-7
6	飯倉中央小学校	1556	写4-8、写4-9
7	202号線荒江3-2付近の陸橋	1938	写4-10
8	原小学校裏	2198	写4-11
9	原中央中学校裏(原1-36)	2430	写4-12
10	原1-19付近の水門	2875	写4-13
11	原1-25付近	2972	写4-14
12	原1-23付近(道路を越えて北側の向こうは汐入川)	3197	写4-15
13	[上新開橋(汐入川)渡る]	-	写ナシ
14	(ここから飛石橋まで暗渠かつぶされているか)	-	写ナシ
15	藤崎2-3-16付近	3769	写4-16
16	藤崎1-23-1(道を挟んで右:矢野医院)	4468	写4-17
17	558号線(原通り)を渡る	-	写ナシ
18	弥生1-2福岡銀行藤崎支店駐車場裏	4535	写4-18、写4-19
19	飛石橋(金屑川:旧稲塚川、旧油山)	4719	写4-20、写4-21

油山川(飯倉7丁目20)から賀茂神社前の水路

順路	場 所	歩数	写 真
1	飯倉7丁目20[油山川(旧稲塚川)]	0	写5-1、写5-2
2	飯倉6-23付近の水門	380	写5-3、写5-4
3	飯倉8-25-2付近	844	写5-5
4	飯倉8-25付近	918	写5-6
5	星の原団地8棟前付近	1603	写5-7
6	星の原団地9棟前付近	1681	写5-8
7	星の原団地前の椿水路と交わる	2650	写5-9
8	賀茂交差点信号前の水路	2882	写5-10
9	賀茂神社	3346	写5-11、写5-12

1. 椿水路 1 (福岡市早良区東入部 8-26 付近から早良区賀茂 1-29-14 付近まで)

一ツ家・大坪橋の起点 (0 歩) から逍遥し、賀茂神社 (金屑川に通じる) の終点まで 13110 歩であった。第Ⅱ部の冒頭に述べたように、椿水路の「椿」は江戸時代において起点付近の地名からその名がついたとされている。この区間の椿水路は、入部小前の区間を除けば、野芥縁切り地蔵前まで旧早良街道 (旧道) を通っている^{注 28)}。また、荒平山を源流とする金屑川は早良更生園横、真正寺裏、重留中央公園横、妙福寺庭園および浄覚寺裏を流れ、国道 386 号線を横切り^{写 1-23}のように金屑川との合流点 (門貫橋) と取水口に流れ椿水路と交わる。金屑川はそののち田隈小学校横を通り賀茂神社に通じている^{注 29)}。

注 28) 参考文献 [14] の旧早良街道マップを参照されたい。

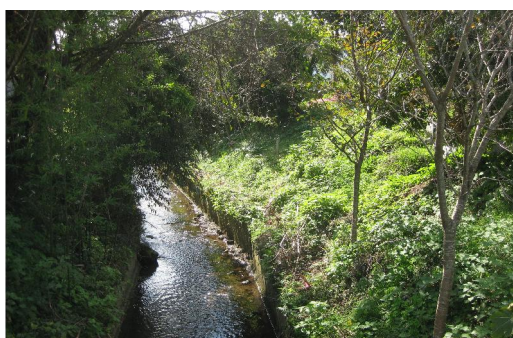
注 29) 参考文献 [15] の 38 頁のマップを参照されたい。



写 1-1 一ツ家バス停裏の小笠木川の堰 (大坪橋付近)



写 1-2 椿水路への取水口 (東入部 8 丁目 26) 付近



写 1-3 136 号線 (東入部 8-26 付近) を横断した椿水路



写 1-4 136 号線を横断した椿水路を横断した椿水路



写 1-5 仙弘院入口の看板前（東入部 8-28 付近）



写 1-6 福岡市水道局埋設の碑



写 1-7 福岡市水道局埋設の碑



写 1-8 早良区東入部 8-13 付近



写 1-9 西教寺前付近



写 1-10 平尾公民館前付近（東入部 8-11 付近）



写 1-11 香楠荘前付近 (東入部 2-14 付近)



写 1-12 香楠荘前付近 (東入部 2-14 付近)



写 1-13 松ヶ根の井付近



写 1-14 松ヶ根の井付近



写 1-15 熊本公民館前



写 1-16 東入部 2-20 : 右へ進む



写 1-17 入部小学校正門前付近



写 1-18 入部小学校付近



写 1-19 東入部 2-9-26 前



写 1-20 国道 263 号線を渡って旧早良街道を北



写 1-21 東入部 3-2 付近



写 1-22 ディスカウント ドラッグコスモス
東入部店裏付近



写 1-23 金屑川との合流点（門貫橋）と取水口



写 1-24 金屑川から取水された樺水路



写 1-25 元クレイン乗馬クラブ付近から金屑
川は左へ（拝塚古墳跡付近）



写 1-26 西友サニー重留店裏（旧早良街道）



写 1-27 西友サニー重留店裏



写 1-28 重留新町信号（渡る）



写 1-29 水道路



写 1-30 野芥五差路信号（徳栄寺入口門）



写 1-31 野芥縁切り地藏尊前（ここまで
旧早良街道）



写 1-32 円応寺前（野芥 4-17）



写 1-33 ふくや野芥店裏



写 1-34 野芥交差点（西側の椿水路）



写 1-35 福岡銀号野芥支店裏(田隈保育所前)



写 1-36 徳法寺交差点



写 1-37 徳法寺交差点信号(北へ渡ったとこ)



写 1-38 大藪児童広場



写 1-39 大藪児童広場近く(早良区賀茂 2-13)



写 1-40 賀茂交差点信号



写 1-41 賀茂公民館入口



写 1-42 賀茂公民館入口前の分岐水路



写 1-43 賀茂神社（金屑川に通じる）



写 1-44 賀茂神社（早良区賀茂 1-29-14）



写 1-45 賀茂神社本殿



写 1-46 福岡市地下鉄七隈線野芥駅のシンボルマークは**榿水路**

2. 椿水路 2：椿水路経路（西友サニー重留店裏から賀茂神社まで）

椿水路 2 は、一ツ家から西友サニー重留店裏（旧早良街道）まで椿水路 1 と同様で、そこから分流する。椿水路 2 の詳細は椿水路の表および以下の写真の番号順に見ていただきたい。西友サニー重留店裏を起点（0 歩）として、田隈土井公園裏、田隈小学校（椿水路が金屑川に通じる）信号、（以降金屑川）、賀茂小南信号を經由して終点の賀茂神社（5509 歩）へと流れている。



写 2-1 西友サニー重留店裏



写 2-2 西友サニー重留店（重留 1-9 付近）



写 2-3 早良新町公園前付近



写 2-4 野芥 7-39 付近



写 2-5 野芥 7-3-38 付近



写 2-6 田隈土井講演裏



写 2-7 田隈土井公園から暗渠になっている道



写 2-8 西福岡テニスクラブ裏 (暗渠)



写 2-9 田隈 3-23-24 付近



写 2-10 田隈 3-6 付近の橋



写 2-11 田隈小学校(椿水路 2 が金屑川に通じる)信号



写 2-12 椿水路 2 が金屑川と合流する地点 (田隈小学校信号付近)



写 2-13 田隈小学校信号付近を北に渡ったところ
(左：椿水路、右：金屑川)



写 2-14 田隈小学校東側の金屑川



写 2-15 田隈 2-4-2 付近



写 2-16 内林 (うちはやし) 公園前



写 2-17 大町橋



写 2-18 池ノ坪橋



写 2-19 外環金屑川橋 (そとかんかなくすがわばし)



写 2-20 外環金屑川橋



写 2-21 賀茂小南信号



写 2-22 水町橋



写 2-23 水町橋付近



写 2-24 新開橋（しんびらきばし）付
近からの賀茂橋



写 2-25 賀茂神社



写 2-26 賀茂神社

3. 油山川（旧稲塚川）〔幸田橋（干隈三差路信号付近）から深町橋（ふかまちばし）〕

西油山山麓を源流として、西油山の海神社（わだづみじんじゃ）東側、さつき幼稚園西側、野芥天神橋、福西会病院東側および幸田橋（牟田病院近く）へと流れている。ここまでの油山川はにごし川とっていた^{注30)}。にごし川の謂れとして、西油山には三百六十坊の食用米のとき汁が流されてくるということからこの名がついている^{注31)}。ここで取り上げている油山川は2003年頃まで稲塚川（いなづかがわ）とっていた川である。現在その川はその名残として飯倉に下稲塚橋および稲塚橋があり、上述のように、この辺りに稲塚という地名のところがあったことに由来している。現在の油山川は室見小学校で金屑川に流れている。この節では、早良区干隈の幸田橋を起点（0歩）として終点の飯倉の原中学校西の深町橋までの歩数は1935歩であった。

注30) 参考文献〔14〕の17頁を参照されたい。

注31) 参考文献〔4〕の後編180頁から引用。



写3-1 幸田橋（干隈三差路信号付近）



写3-2 大坪橋



写3-3 原人道橋（はらじんどうきょう：飯倉小学校裏）



写3-4 上学橋（じょうがくばし：飯倉8-19付近）



写 3-5 飯原公園



写 3-6 賀茂神社前水路からつづく水路の出口



写 3-7 下稲塚橋 (しもいなつかはし)



写 3-8 下稲塚橋 (しもいなつかはし)



写 3-9 稲塚橋



写 3-10 稲塚橋



写 3-11 深町橋 (ふかまちばし)



写 3-12 深町橋

4. 旧油山川[飯倉 7 丁目 20[油山川（旧稲塚川）]から飛石橋（金屑川：旧稲塚川、旧油山）]

旧油山川は旧稲塚川の飯倉 7 丁目 20 から東へ分かれ、飯倉西公園前、飯倉幼稚園前、飯倉中央小学校前、(202 号線を渡る)、原小学校裏、原中央中学校裏、(汐入川を渡り、藤崎方面へ)、矢野医院前を左へ、(558 号線・原通りを渡る)、福岡銀行藤崎支店駐車場裏そして飛石橋へとクリークの小川として流れている。汐入川から飛石橋までは暗渠となっている。旧稲塚川の飯倉 7 丁目 20 を起点 (0 歩) として終点の飛石橋までは 4719 歩であった。

なお、福岡銀行藤崎支店駐車場付近は鳥飼炭鉱[1927(昭和 2)年の地図に軌道]の引込線が北筑軌道(今川橋から加布里まで)と接続していた場所でもあった^{注 32)}。

注 32) 参考文献 [14] の 64~65 頁の鳥飼炭鉱を参照されたい。



写 4-1 旧稲塚川 (現油山川：飯倉 7-20 付近)



写 4-2 旧稲塚川 (飯倉 7-20 付近の取込口：水色)



写 4-3 旧油山川 (飯倉 7-20)



写 4-4 飯倉西公園前



写 4-5 カーブ



写 4-6 飯倉幼稚園前



写 4-7 飯倉 4 丁目信号



写 4-8 飯倉中央小学校前



写 4-9 飯倉中央小学校前



写 4-10 202 号線荒江 3-2 付近の陸橋



写 4-11 原小学校裏



写 4-12 原中央中学校裏 (原 1-36)



写 4-13 原 1-19 付近の水門



写 4-14 原 1-25 付近



写 4-15 原 1-23 付近 (向こうは汐入川)



写 4-16 藤崎 2-3-16 付近



写 4-17 藤崎 1-23-1 (道を挟んで右：矢野医院)



写 4-18 558 号線 (原通り) を渡る



写 4-19 弥生 1-2 福岡銀行藤崎支店駐車場裏



写 4-20 飛石橋 (金屑川：旧稲塚川、旧油山川)



写 4-21 飛石橋 (旧油山暗渠からの出口か)



写 4-22 金屑川：現油山川 (右) 汐入川 (左)

5. 油山川（飯倉 7 丁目 20）から賀茂神社前への水路

油山川（飯倉 7 丁目 20）から賀茂神社前への水路あるいは賀茂神社前から油山川への水路は星の原団地を経由する水路である。油山川から東は旧油山川へ、西は油山川（飯倉 7 丁目 20）から賀茂神社前の水路それぞれの分岐の流れとなっている。この区間の水路は後者である。この水路はクリーク水路であり、他のクリークとの接続もあるが、樁水路 2 とも接続している。



写 5-1 飯倉 7-20（油山川（旧稲塚川）付近



写 5-2 飯倉 7-20 付近



写 5-3 飯倉 6-23 付近の水門



写 5-4 飯倉 6-23 付近の水門



写 5-5 飯倉 8-25-2 付近



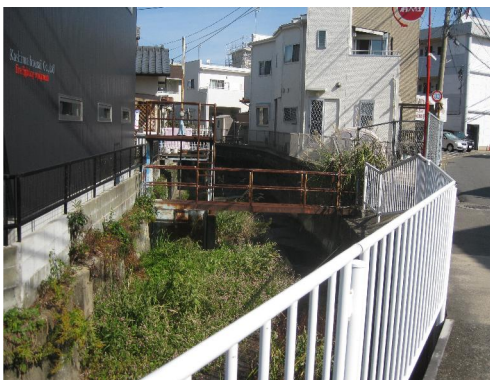
写 5-6 飯倉 8-25 付近



写 5-7 星の原団地 8 棟前付近



写 5-8 星の原団地 9 棟前付近



写 5-9 星の原団地前の椿水路と交わる



写 5-10 賀茂交差点信号前の水路



写 5-11 賀茂神社



写 5-12 賀茂神社殿

〔第Ⅱ部の参考文献〕

- 〔1〕 青柳種信著／広渡正利・福岡古文書を詠む会編校訂『筑前國續風土記拾遺 下巻』文献出版, 1993 年6 月.
- 〔2〕 加藤一純・鷹取周成共編／川添昭二・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記付録 中巻』文献出版, 1977 年 12 月.
- 〔3〕 貝原益軒編／伊藤尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版, 2001 年 6 月.
- 〔4〕 福岡県早良郡役所編『早良郡志』名著出版, 1973 年 2 月.
- 〔5〕 福岡県立図書館『近代福岡市街地図 年代：明治・大正・昭和』福岡県立図書館郷土資料課, 2012 月 12 月.
- 〔6〕 福岡市教育委員会『野芥大藪 2－野芥大藪遺跡第 2 次調査報告－(福岡市埋蔵文化財調査報告書 1085 集)』福岡市教育委員会, 2010 年 3 月.
- 〔7〕 福岡市水道局『福岡市水道五十年史』福岡市水道局, 1976 年 6 月.
- 〔8〕 福岡市道路下水道局計画部河川計画課『令和元年度版 福岡市の河川』福岡市道路下水道局, 2019 年 11 月.
- 〔9〕 福岡人文社企画制作室『グラウンド 福岡市と周辺図 まちず (25 改訂版)』福岡人文社, 2003 年 2 月.
- 〔10〕 福岡人文社企画・編集『福岡市都市圏まちず (13 改訂版)』福岡人文社, 2005 年 10 月.
- 〔11〕 福岡地方史研究会編『福岡市歴史散策』海鳥社, 2005 年 12 月.
- 〔12〕 内務省地理局編纂物刊行会『明治前期 全国村名小字調査書 第四巻』1986 年, 10 月.

- [13] 歴史学研究会編『日本史年表 第四版』岩波書店, 2001年12月.
- [14] 内山敏典『早良逍遙マップ記 - 歩いて歴史を訪ね、未来に繋ぐ - 』城島印刷所, 2003年12月.
- [15] 内山敏典『続早良逍遙マップ記 - 鉄道跡を歩いて、未来に繋ぐ - 』城島印刷所, 2005年1月.
- [16] 柳猛直『福岡歴史探訪 早良区編』海鳥社, 1995年11月.
- [17] 山口恵一郎・佐藤侑・沢田清・清水靖夫・中島義一編集『日本図誌大系 九州 I 』朝倉書店, 1999年10月.

おわりに

本冊子は、これまで早良逍遥マップ記および続早良逍遥マップ記において取り上げなかった「比丘尼および吊溝とその関連遺構」、それらのマップ記に取り上げてはいるが詳細ではなかった「椿水路」についての解説となっている。椿水路の関連遺構は上記のマップ記に詳細に記載しているので、それらの冊子を参照されたい。本冊子での関連遺構は地名や遺構名にとどめている。

2003年に早良逍遥マップ記を上梓したとき、その中で椿水路は「江戸時代において、現在の入部8丁目からの椎原川取水し賀茂神社まで流れている。その後は原方面へ続いている」と記載していたが、市民の方から原方面は流れていないのではとの問い合わせがあった。本冊子では、当時のことを踏まえて、江戸時代以降から現在までの椿水路について記載している。椿水路は金屑川や油山川との接続があり、とくに椿水路は重留の門貫橋で金屑川に、またそこから椿水路へと流れており、そこからの金屑川は賀茂神社へと流れている。その椿水路は野芥交差点、徳法師交差点から干隈を流れ、クリークを通じて油山川に流れている。本冊子は逍遥によってそれらのことを明らかにしている。

本冊子で取り上げている比丘尼については、比丘尼の墓や吊溝の遺構も残っているが伝承のことが多く、江戸時代の学者である貝原益軒や青柳種信などの文献に依拠せざるを得なかった。遺構を調査するために、現地でのインタビューを試みたがほとんど住民に会うことができなかった。インタビューできたのは、舟石がある脇山の舟石・野田・栗田の農作業していたご夫婦、吊溝のある西地区の住人のご夫婦と農作業していた男性であった。また、現地で遺構の謂れ等について尋ねても、多くの理由で知られていないケースがほとんどであった。

本冊子が地域の人々に少しでも関心を持たれること、地域の学校教育に役立つこと、福岡市や県の観光資源の発掘に役立つことを期待するものである。

【著者紹介】 内山 敏典（うちやま としのり）

現在、九州産業大学名誉教授

九州産業大学学術研究推進機構科研費特任研究員（令和4年3月31日迄）

専攻：統計学, 計量経済学

経済学修士

博士（農学）

【地域史著書】

『早良逍遥マップ記—歩いて歴史を訪ね、未来に繋ぐ—』（単著）城島印刷, 2003 年.

『続 早良逍遥マップ記—鉄道跡を歩いて、未来に繋ぐ—』（単著）城島印刷, 2005 年.

『福岡都市圏歴史散策マップ記』（単著）九州産業大学産学連携室, 2009 年.

『福岡（筑前）およびその関連地域の歴史散策マップ記—とくに高取焼および元寇を例とした「まちおこし」のための文化・歴史について—』（単著）九州産業大学産学連携室, 2011 年.

『旧三瀬街道とその周辺逍遥マップ記—伊能忠敬一行の測量から 200 年を経過して—』（単著）九州産業大学産学連携室, 2015 年.

『唐津・多久・大町地域周辺散策記—歴史的遺産を通じて、現在・過去・未来を考える—』（単著）九州産業大学, 2017 年.

『路地から見る歴史と文化—「まち」おこしての財産を活かすため—』（単著）九州産業大学, 2018 年.

『筑紫国（福岡県）周辺の古代城跡からみる歴史—「まち」おこしとしての財産を活かすため—』（単著）九州産業大学, 2020 年.

『西油山および荒平山周辺の歴史散策マップ記』（単著）地域史と統計処理のさわらラボ, 2020 年.

【主要専門著書】

『アンケート調査に基づく専門教育科目の授業効果分析』（共著）九州大学出版会, 1989 年.

『消費需要の計量的分析—食肉消費を事例として—』（単著）晃洋書房, 1992 年.

『間接税改革の国際比較』（共著）九州大学出版会, 1993 年.

『統計解析技法』（単著）晃洋書房, 1993 年. 『消費構造の変容とその統計的分析』（単著）晃洋書房, 1995 年.

『余暇関連財需要の計量的分析』（単著）晃洋書房, 1998 年.

『増補 統計解析技法』（単著）晃洋書房, 1998 年.

『計量分析のための統計解析技法』（単著）晃洋書房, 2002 年.

『看護統計テクニク—基本からパス分析まで—』（監修）医歯薬出版, 2003 年.

『トピックス統計解析技法—電卓, Excel および VBA における計算法—』（単著）晃洋書

房, 2006 年.

『基本計量経済学』(共著) 勁草書房, 2006 年.

『経済・心理・医療・看護等の教育のためのベーシック統計解析技法—電卓, Excel およ VBA における計算法—』(単著) 晃洋書房, 2008 年.

『有田・伊万里および福岡地域における消費者の意識調査分析—新しい陶磁器需要創造および生産構造をめざして—』(共著) 九州産業大学柿右衛門様式陶芸研究センター, 2009 年.

『柿右衛門様式学—“やきもの”の技法と歴史及び美—』(共著) 九州産業大学柿右衛門様式陶芸研究センター, 2011 年.

『統計解析の基礎—データ解析の基本と実践—』(単著) 晃洋書房, 2015 年.

『経済・経営・心理・医療・看護等指導者のためのアンケート調査データ解析の技法—ACCESS・EXCEL ソフト、F-BASIC・十進 BASIC・VBA プログラムそれぞれの利用方法—』(単著) MyISBN - デザインエッグ社, 2018 年.

【主要専門論文・COE ・科研費論文の一部】

「畜産物消費の回帰主成分分析」『農業経済研究』第51巻第3号, 日本農業経済学会, 1979.

「MULTIPLE CLASSIFICATION ANALYSISによる英語授業効果分析—東海大学工学部福岡教養部を例として—」『東海大学外国語教育センター紀要』第5輯, 東海大学, 1985年.

「成人女性の食生活意識調査に基づく肉類需要分析—福岡市と佐賀市および両周辺地域を一例として—」『季刊家計経済研究』通巻第11号, (財)家計経済研究所, 1991年.

「消費需要の所得階層間分析」『季刊家計経済研究』通巻第23号, (財)家計経済研究所, 1994年.

「陶磁器需要の統計的分析—柿右衛門様式陶磁器需要との関連性について—」『柿右衛門様式陶芸研究センター論集』第2号, 文部科学省 21世紀COEプログラム:九州産業大学, 2006年.

「徳川幕府期における伊万里焼国内流通の研究—筑前における陶器商人の役割を例として—」『柿右衛門様式陶芸研究センター論集』第4号, 文部科学省21世紀COEプログラム:九州産業大学, 2008年.

「陶磁器需要推移の統計的分析—主として、マイクロデータに基づく多重分類分析によるアプローチ—」『柿右衛門様式陶芸研究センター論集』第5号, 文部科学省 21世紀COEプログラム:九州産業大学, 2009年.

「少子高齢社会における食料問題意識に関するコンジョイント分析」『エコノミクス』第10巻第1号, 九州産業大学経済会, 2009年.

「地域産業が地域経済に及ぼす影響の計量分析」『柿右衛門様式陶芸研究センター論集』第9号, 柿右衛門陶芸センター, 2013年.

「佐賀県における諸富家具生産者の意識調査分析」『柿右衛門様式陶芸研究センター論集』第10号, 柿右衛門陶芸センター, 2014年.

「福岡県の伝統産業とその関連産業の構造分析—福岡県の産業連関表による計量分析—」柿

右衛門様式陶芸研究センター論集』第12号, 柿右衛門陶芸センター. 2016年.

「唐津焼窯元の作陶に対する共通意識の計量分析」『伝統みらい研究センター』第1巻第1号, 柿右衛門陶芸センター. 2018年.

- * 「伝統工芸品の需要構造分析—「家計調査」に基づく金額弾力性と数量弾力性からのアプローチ」『伝統みらい研究センター』第1巻第2号, 柿右衛門陶芸センター. 2019年.
- * 「日用品としての陶磁器の品質と価格に関する消費者意識の一考察—多重分類分析を用いたアンケート調査データの解析から—」(共著)『日本計画行政学会九州支部』第43号, 2019年.
- * 「博多織需要に関する成人女性意識の計量分析」『伝統みらい研究センター』第1巻第3号, 柿右衛門陶芸センター. 2020年.
- * 「アンケート調査に基づく専業主婦の陶磁器需要分析—購入頻度からのアプローチ—」『中央大学経済学論纂』第60巻第5・6号(田中廣滋教授記念号). 2020年.
- * 「「家計調査」にみる伝統工芸品需要の時系列分析」『伝統みらい研究センター』第1巻第4号, 柿右衛門陶芸センター. 2021年.

など多数。

なお、* 印はJSPS科研費JP18K00249、JSPS科研費JP19K00269の助成を受けた論文である。

早良逍遥マップ記拾遺

—中世および近世の灌漑用水とその関連遺構—

2021 年 4 月 2 日 初版発行

著 者 内山 敏典

発行 地域史と統計処理のさわらラボ

<http://www.ut.saloon.jp/index10.htm>

E-mail : uchiyama4396@minos.ocn.ne.jp

非売品

© Uchiyama Toshinori